

令和6年8月22日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

愛媛県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
愛媛県立松山東高等学校	愛媛県教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
愛媛県立松山東高等学校	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/page_20220427101556

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
愛媛県立松山東高等学校	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/file/6649	https://matsuyamahigashi-h.esnet.ed.jp/file/6650

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

☐ 一部、計画通り実施できていない

☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

☐ 実施していない

<特記事項>

合格者説明会や、新入生オリエンテーション、類型、科目選択説明会（新２年生対象）において、特別の教育課程による学校設定教科・科目を活用した課題研究への取組について説明している。また、中間発表会や研究成果発表会を実施し、生徒の取組状況についての情報発信を行っている。

4. 実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本特例は、平成 26 年度から平成 30 年度までの「スーパー・グローバル・ハイスクール（SGH）事業」及び、令和元年度から令和 3 年度までの「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」の二つの文部科学省研究指定事業で蓄積した学びのスキルや地域との連携を生かして、グローバルな視点を持って地域課題の解決に貢献できるグローバル人材の育成を目指すものである。自分たちが学んだことを横に広げるだけでなく、後輩たちにも伝えようと、出身中学校でのワークショップを企画・実施する生徒が現れるなど、学びを下の世代に伝えようとする動きが新たに出始めており、成果が上がっている。

令和 6 年度に向けての課題として、２年生の課題研究のテーマについて、１年時に取り組んだ「地域の活性化・持続可能な発展」について更に深めるテーマや、本校生の進路希望先として多い「医療」に関するテーマが少ないことが挙げられる。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本県屈指の伝統校かつ公立進学校として、高い進路目標を抱いた生徒が数多く入学してくる。難関大学や医学部医学科を中心に多数の合格者を輩出するなど、本特例の実施により生徒一人一人の高い進路目標につなげていることがうかがえる。また、探究活動を通して、主体的に考え、自らの考えを発信したり、積極的に行動したりする力を身に付けるなどの成果が上がっている。

しかしながら、課題研究のテーマについて、１年時に多くの時間を掛けて取り組んだ「地域の活性化・持続可能な発展」について更に深めるテーマや、本校生の進路希望先として多い「医療」に関するテーマが少ないことは、課題として挙げられる。

5. 課題の改善のための取組の方向性

4 に示すような課題を踏まえ、松山市の協力を得て「地域の魅力化」をテーマとした講座や、愛媛大学医学部の協力を得て「医療」に関する内容をテーマとした講座を新たに開設することで、生徒にとってより魅力的な講座編成とすることができた。